

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.57

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

ご 挨拶

竹 中 龍 範

みなさま、新年明けましておめでとうございます。

ちょうど1年前の本ニューズレター第53号の巻頭に、2008年はわが文化5年にイギリス軍艦フェートン号が長崎港に闖入し、乱暴狼藉をはたらいたフェートン号事件から200年の節目に当たり、これを機に、秋10月に日本英学史学会と日本英語教育史学会との合同全国大会が開催されるので、中国・四国支部からも多くの方々にご参加になられ、積極的に研究発表を行ってくださるようお願いを申し上げます。その日本の英学200年記念合同研究大会が、事件の舞台となった長崎を会場に、10月25日(土)~27日(月)の3日間にわたって開催され、盛会裡に本邦英学史200年を画したことは、本ニューズレター第56号に、田中正道先生の巻頭エッセイ、ならびに他のご参加の方々による報告・感想として掲載された記事からお読み取りいただけたかと思います。

明けて本年2009年は、このフェートン号事件を契機として、長崎の蘭通詞が幕命によって英語の習学を始めてよりやはり200年目に当たるということで、別のところでは日本の英語教育史200年としてこれを記念する企画もあるやに仄聞しております。ただ、これを以て、英学史と英語教育史がどう異なるのかとの議論を始めても、それはあまり実りある議論に発展するとも思われません。

わが日本英学史学会中国・四国支部は、広島支部として発足した当初は、医学史方面の特別講演や研究発表等も行われておりましたが、近年は、やはり英文学・英語学・英語教育の分野に範囲が狭まってきたように思われ、これは日本英学史学会本部における傾向とも共通するところです。わが国の近代学問領域の多くが、その源を幕末・明初の蘭学・英学等の洋学に有していることを考えれば、今一度、広義の英学と狭義の英学という問題に思いを致し、さらに広い分野から英学史研究者を発掘、糾合しなければならないのではないかと思います。こういうことを思うたびに思い出されるのが、故池田哲郎先生の「英学の気(ケ)があればいいんだよ。」とのお言葉です。このような視点に立って、新しい会員の獲得に向けてご協力いただければ幸いです。

(日本英学史学会中国・四国支部長)

日本英学史学会中国・四国支部

平成20年度 第2回(通算59回)研究例会 報告



平成20年度第2回(通算第59回)研究例会は、2008年12月13日(土) 福山大学社会連携研究推進センター(福山市)において開催されました(参加者15名)。開催にあたり、理事の小篠敏明先生に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

以下、当日のプログラム、発表概要、参加者の感想を掲載いたします。ご参照ください。

研究例会プログラム

日 時： 2008年12月13日(土) 12:30 受付開始

会 場： 福山大学社会連携研究推進センター(宮地 茂 記念館)
〒720-0061 福山市丸之内1-2-40 (JR 福山駅北口)

開会行事 (13:00 ~ 13:10)

支部長挨拶 竹中龍範(香川大学)

研究発表 (13:10 ~ 14:10) 司会 能登原昭夫(元山陽学園大学)
山 田 宗 八(山田共学道場)

「生麦事件の一考察 — 薩英戦争の歴史的意義をさぐる — 」

(休憩 14:10 ~ 14:20)

研究発表 (14:20 ~ 15:20) 司会 小篠敏明(福山平成大学)
田 中 正 道(兵庫教育大学名誉教授・広島大学名誉教授)

「昭和初期のラジオ『夏期英語会話講座』」

(休憩 15:20 ~ 15:30)

研究発表 (15:30 ~ 16:30) 司会 保坂芳男(立命館大学)
馬 本 勉(県立広島大学)

「妹尾啓司文庫にみる広島の英学」

(感想記入 16:30 ~ 16:40)

閉会行事 (16:40 ~ 17:00)

副支部長挨拶 田村道美(香川大学)
写真撮影

懇親忘年会 (17:30-19:30) (「夢本陣・なごみ」にて)

生麦事件の一考察

— 薩英戦争の歴史的意義をさぐる —

発表概要 1862年9月20日週間英字新聞 The Japan Herald は、英国領事館によるリチャードソンの葬儀参列者への公式会葬御礼の記事を下記のごとく掲載した。

NOTIFICATION

H. B. M.'s Consulate, Kanagawa, 17th September, 1862.

The undersigned H. B. M.'s Consul has the honor to convey his sense of gratitude to all those who attended the Funeral of the unfortunate victim Mr. Richardson, who was assassinated on the 14th instant.

文久2年8月21日(新暦9月14日)日曜日に起こった生麦事件を生々しく伝えた。マーシャルクラークは負傷しながらも命からがら、アメリカ領事館本覚寺に逃げ込みウィリアム・ウイリス、ジェンキンス、ヘップバーン医師たちの手当をうけ保護された。また混乱のなか1人無傷ですんだボロデール夫人は横浜の居留地に逃げ帰る。生麦での惨状を聞くとバイス大尉率いる騎馬護衛兵が現場に急行リチャードソンの遺体を収容した。リチャードソンの遺体の検死報告によると、前腕の骨を両方切断し手はただ単に外皮によってつながっていた。腹腔に通じる傷から大腸の一部が外にはみ出していた。肋骨を切断しそこから肺、胃、大腸・小腸がはみ出していた。この事件がもとで薩摩とイギリスが文久3年7月薩英戦争となったのである。

この戦いは二日間で終了するが薩摩はイギリスとの戦力の差をまざまざと見せつけられ、今まで唱えてきた攘夷鎖国論の無意味を知り一気に開国へと政策を転換した。幕府は1863年6月24日英国代理公使ニールと江戸幕府代表小笠原長行と賠償交渉がまとまり10万ポンド(40万ドル)支払った。しかしながら、薩摩は生麦事件発生後一年を超えて1863年12月11日に賠償金2万5000ポンド(10万ドル)を支払い解決の日を迎えたわけである。交渉が決着したことにより、イギリスとの関係がより親密になり薩摩藩は幕末の政局の中でより無視しがたい存在に成長していくことになったのである。倒幕、明治維新へと五年間でこの大革命を成し遂げたのである。

まさに生麦事件は、近代国家成立の発端として歴史上非常に重要な意味を持つのである。



山田 宗八 氏

津山に対する郷土愛を原点としながら、その御関心が生麦事件へと広がり、その問題を原資料にあたって堅実に調査しておられ、安心して伺いました。

(Dragon)

生麦事件を外から見たご考察はとても興味深かった。「発見」の喜びが伝わるプレゼンでした。今後とも津山にこだわっていただきたいものです。

(もみじまんじゅう)

生麦事件の詳細を知ることができ、とても勉強になりました。また、アームストロング砲(と砲弾)と加農砲(と砲弾)の写真によって、薩英戦争において薩摩が惨敗した理由が一瞬で理解できました。

(Emma)

研究者として資料を捜される先生の姿勢・執念に感銘を受けた。頂いた資料にはゆっくり目を通して欲しいと思う。生々しい資料、貴重な資料、どうもありがとうございました。

多くのことを学ばせて頂きましてありがとうございました。改めて写真などによる英学史の研究と調査の必要を感じました。(Mikio M.)

山田先生のバイタリティあふれる英学史研究には深い感銘を受けました。資料を求めて全国を歩き回り、その資料に精魂を傾けて取り組む姿は、正に英学史研究の原点だと納得させられました。(小篠)

The Japan Herald と The Illustrated London News からの記事を訳出して生麦事件についての生々しい報道のありようを紹介した労を多としたい。又英文を日本語に訳出したエネルギーに脱帽する。イギリス人の側からの一方的な記述の裏に日本文化の理解不足が原因で起こった事件であるとの考察も付け加えられるとよかったのではないか。(風呂 鞆)

おどろきました。The Japan Herald のあの小さな活字を丹念に読み込まれたこと、大変なご苦労であったと思います。(齊藤泰成)

最近、NHK のテレビのドラマが「篤姫」を放映

しているこの時機にこの発表は興味深く、かつ有意義であったと思われる。薩英戦争に限らず、戦争というものは始める前に十分な交渉、話し合いによる解決が重要であると改めて考えた次第である。いずれにしても最初に攻撃を始める側に自制が求められる。戦争はいかなる理由があるにしろ始めてはならない。また応じてはならないと考える。生麦事件が薩英戦争の原因であったとすると、相手の無礼に対して殺害したのは行き過ぎであったのは自国民として反省すべきことである。(上原義徳)

山田先生のご発表資料と、それを纏められるプロセスに、ただただ圧倒されました。近いうちに必ず、津山を訪れたいと思います。(Horse)

昭和初期のラジオ「夏期英語会話講座」

発表概要 本発表では日本放送協会が昭和 10 年(1935)から昭和 14 年(1939)まで放送した「夏期英語会話講座」の特徴を浮き彫りにした。まず、この番組の先駆けと思われる番組が昭和 7 年頃から存在していたことを紹介、ついで本番組の際立った特徴について言及した。特定の有名講師が番組全てを統括するのではなく放送局側が多彩な講師の人選を主体的に行っていたこと、英米の風物、文化をリスナーに一方的に聞かせるのではなく後半の番組では日本の文化紹介も積極的に行っていたこと、さらには、英語一辺倒ではなく米語も導入されていたこと等を指摘した。

ラジオ講座のテキストは纏まって入手できることが少なく、このように夏期英語会話講座の始まりから終わりまで揃ったテキストによって、その講座の全体像を分析して頂き、面白く伺いました。これまでの御発表とも併せ、語学放送史の全体像に迫っていただければと思います。(Dragon)

散逸を免れた貴重な資料の紹介・分析、楽しく聴かせて頂きました。当時の一テーマに関する会話文の長いことに驚きました。(Emma)

昭和 10 年頃のラジオ放送英語講座の研究というユニークな発表が聞けて面白かった。

新知識をたくさん、ありがとうございました。JOBK 研究については、英語教育研究室の M 教授にお尋ねください。(Mikio M.)

日本の視聴覚教育史の中にしっかりと位置づけられるよう先生の今後の研究発展に期待して止みません。(五十嵐二郎)



田中正道氏

田中先生の夏期英語会話講座は英学史・英語教育史分野の可能性に満ちた鉱脈だと思います。英語教科書と相補的な関係で日本の英語教育を担ってきたラジオ英会話の実態と貢献を明らかにすることは意義深い試みだと思います。先生のご研究の更なる発展を心より期待しています。(小篠)

第 58 回研究例会での「昭和初期のラジオ『英語講座』」というご発表に次ぐもので、NHK ラジオ講座による英会話講座に的を絞った話。貴重な資料をもとに当時のラジオ講座の non-formal ではあっても、正しい英語教育に対する意気込みが理解できた。(風呂 肇)

どのような人達が聴いていたのか、知りたいと思いました。(齊藤泰成)

昭和初期のラジオ「夏期英語会話講座」から「夏期実用英語会話」へと変化していく様を歴史的に知ることができました。Situational Language Teaching のアプローチに興味があります。

(山田宗八)

田中先生が資料を入手された経緯を伺ったとき、それらが収まるべき所を選んだのではないかという、何か「必然性」のようなものを感じました。

英語放送番組の歴史の中で、交わされる会話の「自然さ」をどう確保していったのか、大変興味を覚えました。回覧していただいたテキストの一部にあるような、架空の人物が登場するロール・プレー的な会話よりも、出演者同士の情報交換やインタビュー形式で本人の声として発する会話(ご発表資料にあるような)のほうが、私個人としては心理的な抵抗が少ない教材であるように思います。

先生のご発表やディスカッションを通じ、歴史的な教材の分析方法を考える上で、大変参考になりました。ありがとうございました。(Horse)

妹尾啓司文庫にみる広島英学

発表概要 故妹尾啓司先生御蔵書のうち、英語教科書を中心とした「妹尾文庫(第一期)」は、小篠敏明先生による目録が整備され、『英学史論叢』第9号(2006)に付録として収録されている。2007年冬にご寄贈を賜った第二期妹尾文庫には、キリスト教関係、歴史や美術関係の全集もの、明治期の小学校教科書(国語および習字)などが多く含まれており、その一部は県立広島大学庄原キャンパス図書館に収められている。

今回の発表では、第二期妹尾文庫の特徴を紹介しながら、妹尾先生の「英学」研究の跡を辿った。広汎な洋学・英学の守備範囲をカバーし、地域に根ざした妹尾先生のご研究から、私たちは多くのことを学ばなくてはならないだろう。

先生の遺された資料をどう活用し、自らのテーマを深めるか。会員諸氏とともに考えていきたい。

妹尾先生について懐かしさ半分に何うとともに、妹尾先生の洋学史・英学史観に学びつつ、資料をどう活用するか、或いはいかに集めるかについて考えさせられました。(Dragon)

妹尾啓司文庫の多岐にわたるコレクションをうまく分類・紹介され、その特徴がよく浮き彫りになったと思います。ごくろうさまでした。

(もみじまんじゅう)

「妹尾文庫」という宝の山の調査結果を楽しみにしております。(Emma)

貴重な資料が捨てられようとしているのを、馬本先生が救われた経緯がよくわかった。妹尾先生の遺志を生かして、英学の発展に生かされることを切望する。

ありがとうございました。資料保存、特に素稿、ノート、カードなどについてご検討ください。

(Mikio M.)

妹尾先生の学究としての態度・姿勢に心打たれるものがあります。後輩の私たちは、妹尾文庫を先学の糧として、自分の学問研究に生かしながら、先生を超越していくことを約束したいと考えます。

(五十嵐二郎)

妹尾先生には広島支部時代、支部の活動に関して大変助けていただきました。特に学会の活動が停滞していた時期に、おひとりで大変なご苦勞をされたことを近くで見ていた者としてよく覚えております。ご寄贈された妹尾文庫を後世に残すことができれば、すばらしいことだと思います。(小篠)



馬本 勉氏

妹尾啓司文庫(第一期、第二期)の内容、それに基づいた妹尾先生と英学との関係、英学史研究のあり方について学べた。また残された本を通して、かつて広島県内に存在していた書店(出版社)についても学べるのが分かり、興味深かった。会場から妹尾先生についてのエピソードが次々と出ていたが、妹尾先生の生前におけるご活躍が偲ばれて、もう少しそれらを聞く時間が欲しかった。(風呂 鞏)

寄贈された書物の整理が大変だと思いましたが、資料の収集の重要性を再認識しました。(齊藤泰成)

妹尾啓司先生の文庫蒐集に敬意を表します。馬本先生大変御苦勞様でした。整理大変だと思いますがよろしくお願いします。(山田宗八)

その他のコメント:

当日は天気に恵まれたこと、会場は福山駅に近く、特に県外参加者にとってはよかったと思いました。会場内の設備等申し分なしと思われた。(上原義徳)

資料に基づいた貴重な発表ばかりでとても勉強になった。大きな歴史の中で教育を考えることを忘れないようにしたいと思う。(pine)

会員諸氏の履歴書を集めては如何ですか。プライバシーのこともありますが、お互いに案外何もわかっていない気がします。(Mikio M.)

少人数の出席者でしたが、研究発表はいずれも資料豊富、内容の濃いものでした。

(毎回思うことですが)学会として、若手導入の策を立て実行することなしに、学会の将来はないと思います。「来る者だけが寄ればいい」という時代ではなく、本日討議された広報活動にも力を入れるべきです。

私も岡山で若手の養成に努力します。(Terry)

今回の研究例会もとても勉強になりました。

(もみじまんじゅう)

今回も多彩な研究発表が聞けてよい研究例会でした。(風呂 鞏)

中国・四国支部ニュース

ラフカディオ・ハーンの会の報告

『英學史論叢』第12号原稿募集

ニューズレター前号にてお知らせしました通り、中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第12号(2009年5月発行予定)の原稿を募集します。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、次ページに掲載の「執筆要領」「標準書式」に従ってください。

・投稿予定の方は事務手続きの関係上、「投稿申込」をお願いします。2009年1月末日を目途に、事務局へメール(umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)またはFAX(0824-74-1725)にてお申し込みください。

・原稿提出の締切は、平成21年2月20日(金)(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・「研究論考」へのご投稿は、正副計3部をお送りください。英学史随想、書評等の原稿は1部お送りください。

原稿送付および投稿に関する問合せ先

日本英学史学会中国・四国支部事務局
〒727-0023 広島県庄原市七塚町562
県立広島大学 馬本研究室内
電話&FAX: (0824) 74-1725(直通)
e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

平成20年度第2回役員会

2008年12月13日(土) 福山例会に先立ち、役員会を開催し、今年度の活動報告および平成21年度活動計画を協議しました(出席者8名)。

来年度の支部総会および第一回研究例会は、2009年5月30日(土) 広島市内での開催を予定しています。第二回は12月12日(土) 岡山県高梁市での開催を計画中です。

そのほか、平成21年度の役員改選にあたり、事務体制を検討することが話し合われました。また、妹尾文庫(第一期分)の保管を、現事務局(馬本研究室)において担当することが了解されました。



小泉 凡 先生

[第101回「ラフカディオ・ハーンの会」ニュース(2009・1・10発行)より、昨年12月に開かれた第100回記念大会の様子を伝える文章を掲載いたします。転載を許諾して下さった風呂 鞆先生に厚くお礼申し上げます。]

昨年12月6日には「ラフカディオ・ハーンの会」第100回記念大会を“広島市まちづくり市民交流プラザ”で開催することが出来ました。2000年7月から8年半の長きに亘って、ハーンの会の存続に力を与えて下さった多数の方々の御蔭です。心から御礼申し上げます。

第100回記念大会には、小泉八雲の曾孫である小泉凡・島根県立大学短期大学部准教授が、「ハーンとヨーロッパ新考～最近の旅から～」と題する講演をして下さった。大変光栄なことでした。英国オックスフォードのピット・リヴァーズ博物館にある「チェンバレン・コレクション」そこにハーンが贈った出雲大社の火鑽臼や火鑽杵、寺社の護符について、小泉凡先生自らの調査報告、さらに、ハーンの母ローザの生誕地、ギリシャのキシラ島を最近訪問をされた際の発見について語って頂いた。多数の人々のご参加で会場は超満員、本当に嬉しいことでした。

本日から、この市民グループ「ラフカディオ・ハーンの会」は気持ちも新しく、次ぎの100回を目指して航海に出かけます。携える皮囊は新しくとも、中身は今までと変わりありません。ハーンについての学習を通して、ハーンの顕彰、更には自己研鑽に資する場を持つことが目的です。皆様方からの温かいご支援とご協力、何卒宜敷くお願い申し上げます。

ご講演当日、本支部顧問の小泉 凡先生より、近著のご寄贈を賜りました(小泉 時・小泉 凡(編)『増補新版 文学アルバム 小泉八雲』恒文社、2008.)。閲覧希望の方は事務局まで。

『英学史論叢』執筆要領

- ・『英学史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
- ・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいたものは受理しないことがある。
- ・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会には必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。
- ・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
- ・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- ・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。
- ・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部への執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

『英学史論叢』標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18~20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

20mm	38字	20mm	20mm	38字	20mm
芸 藩 の 英 学 — その起源と発展 — 磯 野 波 平 1. はじめに 現在広島県となっている安芸の国、備後の国のうち、早くから洋学研究の必要を認識し、.....としていた。 このような動きに見られる芸藩の態度は、..... 2. 芸藩の英学 幕末期、芸藩においてもやはり、英学に先立ち蘭学が.....であった。かくして、藩校修進館に学んだこれらの人々の 8行分 ト ル 38行 と伝えられている¹⁾。しかしながら、これらの人々に共通に見られる特徴は、..... 注 ¹⁾ 河豚田(1968: 35-38)参照。 ²⁾ この藩府の姿勢については福島(1952: 9)参照。 参 考 文 献 島田寛(1939)『日本英学史の研究』(岩波書店) 福島正則(1952)『石垣修徳』『城郭研究』6号9頁 河豚田路夫(1968)『広島県史』(誠信堂出版) (英広大学教育学部)					

英学史情報ひろば

風呂 肇「広島に生きるハーンの心」～

(「緑地帯」『中国新聞』2008 年 11 月 18 日～28 日)

日本英語教育史学会研究グループ「日本の英語教育 200 年」(大修館書店『英語教育』誌連載)

・第三回(2008 年 12 月号)「英語がわかる、英語ができる—訳読か、オーラルか」(隈 慶秀・平賀優子・馬本 勉)

・第四回(2009 年 1 月号)「三つ星ティーチャーの肖像:『昔の先生』の生き方に学ぶ」(河村和也)

・第五回(2009 年 2 月号)「明治から続いた試行錯誤:小学校英語教育の歴史」(東 悦子・江利川 春雄)

田邊祐司氏による「和文英訳演習室」最終回

(『英語教育』2 月号)

6 年間の長きにわたる連載、お疲れさまでした。

小泉 時・小泉 凡(編)『増補新版 文学アルバム 小泉八雲』恒文社, 2008.

本ニューズレター p.6 を参照

山陽学園大学・山陽学園短期大学社会サービスセンター(編)『日本のイノベーション・岡山のパイオニア 2: 山陽学園大学・山陽学園短期大学 2008 年公開講座』吉備人出版, 2008.

能登原昭夫先生よりご寄贈いただきました。

閲覧希望は事務局まで。

日本英語教育史学会 第 219 回月例研究会

2009(平成 21)年 3 月 15 日(日)午後 2 時より、広島県立生涯学習センター 3 階 第 3 研修室にて。参加費無料。研究発表者は、いずれも本支部会員。

(1) 上原義徳「仲田精利先生の思い出」の要約と一考察」

(2) 隈 慶秀「明治 31 年の尋常中学校英語科教授法案について—尋常中学校英語科教授細目と関連して—」

と慶祝のことば(寺田芳徳)

・書評: 江利川春雄『日本人は英語をどう学んできたか』(平田諭治)

・『英学史研究』第 42 号原稿募集 ほか

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金 2,000 円、年会費 5,000 円)。問い合わせは事務局まで。

広島英学史の周辺(23) 訪れた先での古本集めを細々と続けています。年明けに神保町の小さな古書店で手にしたのは、Richard Grant White 著、*Every-Day English*。(Boston: Houghton, Mifflin and Company) 500 円。出版年は 1897 年、コピーライトは 1880 年。A Sequel to “Words and Their Uses.”とあり、前著の続編であることが分かります。内容は Speech, Writing, Grammar, Words and Phrases の 4 部構成。明治の英学者がこの書を手にしたのだらうな、と思いを馳せています。ふと扉に目をやると、「斎藤」の蔵書印が。もしや・・・▼年末には大学一年生対象のリレー講義「地域の理解」を一コマ担当しました。テーマは「学校史から見た広島の英学」。県下には 100 周年を越えた高等学校が数々ありますが、それらの前身となる中等学校で行われた英語教育のほんの一部を、いくつか例を挙げて話しました。学生諸君の感想には「明治期から英語が教えられていたなんて驚いた」というものが多く見られます。昨年度の「庄原英学校 130 年」に続く 2 度目の担当ですが、この講義を通じ、「一番の勉強」をしたのは、きっと私です。英学についてもっと学び、若い世代にも伝えていきたいと、決意を新たにしています ▼新しい米大統領が誕生し、世界が新たな一歩を踏み出すことを予感させる、そんな新しい年です。“The time has come to choose our better history.” “We are the keepers of this legacy.” こうした history や legacy のことも、英学史の研究を通じて考えていきたいものです ▼今年もどうぞよろしくお願いいたします。(馬)

英学史学会全国ニュース

「日本英学史学会報」No.117

「日本英学史学会報」No.117 が発行されました(1 月 1 日)。目次より、内容の一部を紹介します。

- ・新年のご挨拶(会長 庭野吉弘)
- ・And so, my fellow historians(副会長 塩崎 智)
- ・長崎大会を振り返って(河村和也)
- ・上梓された井田好治『日本英学史論選集』の意義

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.57

2009 年 1 月 23 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.57 January 23, 2009.